

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	付 成
2. 審査委員	主 査：(上越教育大学教授) 河合 康 副主査：(上越教育大学教授) 村中 智彦 委 員：(岡山大学教授) 大竹 喜久 委 員：(上越教育大学教授) 釜田 聡 委 員：(上越教育大学准教授) 池田 吉史
3. 論文題目	中国のインクルーシブ教育における巡回指導教員のコンピテンスに関する研究
審査結果の要旨	
学校教育実践学専攻学校教育臨床連合講座 付成から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。	
論文審査日時：令和6年2月12日（月） 13時30分～14時45分	
場 所：オンライン（Zoom）	
1. 学位論文の構成と概要	
<構成>	
第1章 序論（本研究の問題及び目的）	
第2章 中国における巡回指導教員のコンピテンス・モデルの開発（研究1）	
第3章 中国における巡回指導教員のコンピテンスの現状とその影響因子（研究2）	
第4章 中国における巡回指導教員の育成教育の現状とニーズ	
：コンピテンスの視点から（研究3）	
第5章 総合考察	
<概要>	
第1章ではまず、中国における特別教育とインクルーシブ教育の展開、及びその流れの中で巡回指導と巡回指導教員に関する現状と課題をまとめた。次に、巡回指導と巡回指導教員についてこれまでの先行研究を整理した。その上で、本研究の研究課題と目的を提示した。	
第2章では、研究1「中国における巡回指導教員のコンピテンス・モデルの開発」について論じた。まず、中国の巡回指導教員の役割の特徴を明らかにするために、「巡回指導教員の役割書」を収集し、役割書の文字テキストデータをコード化し、得られたコードを意味内容の類似性に従って分類し、サブカテゴリーを抽出し、それに基づき、役割の特徴を検討した。次に、巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発するために、まず先行研究を概観し、巡回指導教員のコンピテンスに該当する項目を抽出した。続いて、巡回指導教員を対象として、役割を果たした際の具体的な事例をインタビューし、役割の特徴を踏まえて巡回指導教員に求められるコンピテンスの	

構成概念（要素・項目）について明らかにした。さらに、文献やインタビューによって明らかにされたコンピテンスの要素と項目に基づき、巡回指導教員のコンピテンシ・モデルを開発し、信頼性と妥当性を検証した。そして、5つのコンピテンシ因子と23のコンピテンシ項目が含まれる巡回指導教員のコンピテンシ・モデルを構築した。

第3章では、研究2「中国における巡回指導教員のコンピテンシの現状とその影響因子」について論じた。第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンシ・モデルに基づき、巡回指導教員の能力に関する自己評価尺度をもとにアンケート調査を行い、巡回指導教員が備えているコンピテンシの現状及びコンピテンシに影響を与える要因を明らかにした。その結果、巡回指導教員の総合的な能力レベルは高く、各能力因子は比較的均衡しており、特に弱い点はないが、コンピテンシ項目の中の「ICT活用の問題解決能力」が、他のコンピテンシ項目よりやや低いことがわかった。また、巡回指導教員のコンピテンシは特別学校教員や巡回指導教員としての経験年数、地域、研修経験といった要因より影響を受けることが示された。

第4章では、研究3「中国における巡回指導教員の育成教育の現状とニーズ：コンピテンシの視点から」について論じた。本章では、大学の特別教育専攻における巡回指導教員のコンピテンシ育成の現状及び特別教育専攻課程の内容に対するニーズを明らかにするために、まず、大学の特別教育専攻の目標とカリキュラムを考察した。次に、第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンシ・モデルをもとに、特別教育専攻課程が巡回指導教員のコンピテンシの育成に与える影響及び特別教育専攻課程において学ぶべき内容を調査した。その結果、これまでの大学の特別教育専攻には、巡回指導教員に求められる個人的・行為的コンピテンシ、価値観・倫理的コンピテンシ、知識・認知的コンピテンシの育成は機能的コンピテンシとメタコンピテンシ・トランスコンピテンシの育成をより重視していること、また将来の巡回指導教員を育成するために、養成段階より特別教育専攻において巡回指導教員に求められる各コンピテンシ項目に関する内容を学び始める必要性が高く、機能的コンピテンシ及びメタコンピテンシ・トランスコンピテンシに関する課程をより充実させる必要があることが示唆された。また、中国の巡回指導教員に対する研修の現状、研修のニーズ及びそのニーズの関連因子を明らかにするために、第2章で開発された巡回指導教員のコンピテンシ・モデルに基づき、巡回指導教員の教員研修に対する意識に関するアンケートを行なった。その結果、中国の巡回指導教員に対する知識・認知的コンピテンシと機能的コンピテンシに関する研修はまだ不十分であること、知識・認知的コンピテンシと機能的コンピテンシに関する研修へのニーズは、他の3つのコンピテンシ因子に関する研修へのニーズよりやや高いこと、巡回指導教員の職級、地域、勤務年数、支援対象の障害種別数、役割数など異なる属性に基づき、研修の開発が必要であることが示唆された。

第5章は、第2章から第4章までの研究成果を整理するとともに、本研究成果の応用、限界及び今後の課題を提示した。本研究の成果の応用については、個人の専門性向上、巡回指導教員の評価、巡回指導教員の育成という3つの側面から議論した。また、本研究の限界と今後の課題については、サンプルの抽出方法や調査方法の改善、巡回指導教員のスキルラダーの開発という3つの点から論じた。

2. 審査経過

多くの国が巡回指導制度をインクルーシブ教育を推進する上で重要な制度として位置づけているが、その専門性について追求した研究は少ない。中国のインクルーシブ教育の推進においても、

巡回指導教員が特別教育と通常教育のかけ橋として重要な役割を担っているが、巡回指導教員の量と質の不足のため、その役割を果たすことができない状況にある。こうした問題意識に基づいて、本研究は、質の高いインクルーシブ教育を実践できる巡回指導教員の育成、専門性を向上させるため、中国の巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発し、巡回指導教員のコンピテンスの現状とその要因を明らかにするとともに、教員養成と研修における巡回指導教員のコンピテンス育成の現状とニーズを明らかにすることを目的としたものである。審査の結果、この目的に即した方法、結果及び考察が示されており、本研究の知見は今後の巡回指導教員の養成や研修に資することが確認された。

(1) 独創性：ほとんどの国で、特別支援教育における巡回指導教員の専門性の基準、養成教育、研修に関する研究と実践が少ない中で、巡回指導教員に焦点化した点に独創性が認められた。また、本研究では特定の障害の巡回指導教員に限定せず、混合研究法を用いて、ホリスティックコンピテンスの視点から、中国の巡回指導教員のコンピテンス・モデルを開発して、巡回指導教員のコンピテンスの現状及び影響因子並びに巡回指導教員の養成教育と研修の現状とニーズを明らかにした点にも独創性が認められた。

(2) 発展性：本研究で開発された巡回指導教員のコンピテンス・モデルに基づいて、今後、巡回指導教員のスキルラダーを開発することにつながる事が期待できる。これにより、巡回指導教員が、自らの職務遂行の能力の実態を経験年数に関係なく、自分自身でチェックすることが可能となる。

(3) 実践性：巡回指導教員のコンピテンス・モデルの開発により、巡回指導教員の養成教育、初任者研修、及びその後の現職研修のあり方に対して有益な知見を提供したという点で実践性が認められた。また、本研究の結果は、巡回指導教員が自身の業務や専門性向上について明確な認識を持つことにつながり、また、自己評価を行うことを可能にし、さらに、自身の専門性を向上させるためのポイントと方向性を明確にすることに寄与するという点で実践性が認められた。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は付成の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。